

1 今年度の具体的な取組と自己評価

重点目標	教育活動の具体的な取組と自己評価
<p>(1) 学習指導</p> <p>① 授業のはじめに、その授業の流れを4項目程度で視覚的に提示するなど「授業のユニバーサルデザイン化」を推進する。</p> <p>② 教科担当による授業中の生徒状況「気づきシート」を6月に作成し、一人一人の生徒情報を共有し、配慮の必要な生徒に対しては、個別の指導計画を作成し、共通理解のもとに指導し、学習成績の評価について共通理解を図る。</p> <p>③ 1・2・3年次で定期的な学力テストを年間20回以上実施する。</p>	<p>① 年間を通して、授業のはじめに、その授業の流れを提示することを徹底した。また、6教科でユニバーサルデザイン模擬授業ビデオを作製し、3月に校内研修を行い、「授業におけるユニバーサルデザイン化」を推進した。</p> <p>② 「気づきシート」の結果から特に配慮を必要とする生徒12名分の生徒情報を収集し、教職員全体で情報を共有するとともに、保護者の了解のもと、新規で個別指導計画を1件作成し、全教員で共通理解を図って指導した。また、生徒から「授業に関する困り感アンケート」を行い、その結果を参考に本校の「授業のユニバーサルデザイン化」の基盤を作った。</p> <p>③ 1年次では基礎力診断テスト、マナトレ認定テスト及び小テストを年間26回実施し、2年次では基礎力診断テスト及びマナトレ小テストを年間23回実施し、基礎学力向上を図った。</p>
<p>(2) 生活指導</p> <p>① 冬服着用時のセーターなど服装指導及び授業時・登校時のマナー指導を徹底する。また、新入生より規定を明確化し、夏服のベスト、アクセサリーについても明確な指導方針でルールとマナーの指導を徹底し、1月の身だしなみに関する来校者アンケートで肯定的な回答を90%以上とする。</p> <p>② 特別支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、関連機関と連携して指導の改善を図る。特に、入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応する。</p> <p>③ 毎日の清掃指導の充実を図り、学校見学者の清潔感に関する肯定的回答を90%以上とする。</p>	<p>① 身だしなみや挨拶について、指導方針について写真等を使い分かりやすく全教室に掲示し、生徒会執行部と連携して年間3回の校門での挨拶運動及び教員による毎日3回の校内巡回指導、年間2回の校外巡回指導を徹底した。</p> <p>1月の授業公開アンケートでは、「身だしなみを指導すべき」と答えた来校者は2組であり、ほとんどの来校者が肯定的印象をもった。</p> <p>② 学年団を中心に中学校から新入生73名の生徒情報を引き継ぎ入学後の指導に生かした。巡回相談員との相談15回、児童相談所、東京都教育相談センター、医療機関等と連携し生徒一人一人合った指導の充実を図った。</p> <p>③ 1月の授業公開アンケートでは、「汚れている。」と答えた来校者は0名であり、来校者全員が清潔感に関する肯定的印象をもった。</p>
<p>(3) 進路指導</p> <p>① 生徒の進路実現に向け、適宜講習、補習、面接指導等を実施し、進路決定率80%以上を目指す。</p> <p>② ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、特別な支援を必要とする生徒の就労支援を積極的に働きかけ、卒業後の移行支援を見据えて進路指導に取り組んでいく。</p>	<p>① 進路指導部教員が中心となり、「進路ニュース」を発行し、学級担任と連携し個別指導を徹底した。卒業時の進路決定率は80.2%となった。</p> <p>② 進路指導部の中に特別な支援を必要とする生徒の就労支援担当者を置き、その担当者が中心となって、ハローワーク等と連携し、特別な支援を必要とする生徒1名の就職を決めた。</p>

<p>(4) 特別活動・部活動</p> <p>① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事をより充実させ、体育祭・文化祭への参加率を80%以上とする。</p> <p>② 部活動加入率について65%以上、2つの部活動で全国大会出場を目指す。</p>	<p>① 参加率は、体育祭83%、文化祭81%であった。特に文化祭は入場者が2033名（昨年度1583名）で3年連続1500名を超え、大盛況であった。今年度は、特に地域住民の参加者が約350名増えたことが大きかった。</p> <p>② 部活動加入率については、62.8%であったが、女子バレーボール部、卓球部、柔道部の3つの部活動が全国大会に出場し、女子バレーボール部は全国3位となった。</p>
<p>(5) 健康づくり</p> <p>① 教育相談体制を充実させ、相談体制の整備を図るとともに、情報を共有し組織的な指導により、心の健康作りを図る。週5日間カウンセリングルームにフレンドシップアドバイザーが常駐する体制を作り、組織的に活用する。</p> <p>② フレンドシップアドバイザー年間生徒対応人数を1000名以上とする。</p> <p>③ 生徒・保護者の健康への関心を高めさせる指導を組織的に行う。また、生徒全体への定期的保健指導を年間5回行う。</p>	<p>① 週1回のスクールカウンセラーのほかに、心理学を学ぶ大学院生10名をフレンドシップアドバイザーとして配置し、毎日カウンセリングルームに担当者が常駐する体制を作った。また、毎週金曜日にはスクールカウンセラーを交えてカウンセリング委員会を開き、情報共有に努め、全教員が同じ方針で対応できる体制を整備した。</p> <p>② フレンドシップアドバイザーの年間生徒対応人数は563人（751人）であり、減少傾向である。これは、生徒に生徒同士で話し合ったり、自身で問題を解決できる力が付いてきている表れである。来年度以降も全ての教育活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を育成していく。</p> <p>③ 内科、歯科、耳鼻科、眼科の医師による健康相談及び養護教諭による相談や部集会時に保健講話を全生徒に5回実施した。また、教育振興会主催の保護者に対する健康講話を年1回実施し、保護者の健康への関心も高めさせた。</p>
<p>(6) 募集広報活動</p> <p>① 適応指導教室を含め、学校説明会を7回実施し、参加者数1,350名以上を目指し、中学生・地域・保護者への情報提供を推進する。</p> <p>② 総務部を中心に退職教職員等ボランティアも活用し、500名以上の個別学校訪問へ丁寧に対応し、入選倍率において2倍以上を目指す。</p>	<p>① 学校説明会を7回及び授業公開週間年間3回実施し、参加者合計1,763名であった。 また、本校広報誌を8回、10周年記念誌を発行し、保護者及び来校者に配布した。</p> <p>② 個別学校訪問は5年連続で400名を超え、入選倍率は2.29倍となり、昨年度から2年連続で2倍以上となり、チャレンジスクールでは7年連続最高倍率となった。</p>
<p>(7) 学校経営・組織体制</p> <p>① 教育職員と行政職員が密接な連携のもとに学校運営を進め、学校徴収金等の滞納者数をゼロとする。</p> <p>② 経営企画室、生活指導部、保健部などと連携して、施設・設備の安全確認・効率的利用の観点から、施設委員会による校内巡視を行い、より安全な学校環境を整備する。</p>	<p>① 教育職員と行政職員が協力して、学校徴収金滞納者へ働きかけ、ほとんどの生徒が納入した。</p> <p>② 施設・設備の安全確認のため、管理職・経営企画室長による校内巡回及び教職員による校内巡回を毎日3回行い、安全な学校環境を整備した。</p>

※ 自己評価については、生徒による授業評価、学校運営協議会アンケート、学校見学者アンケートなどの結果による。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ① 分かりやすい授業を実現するため、「授業のユニバーサルデザイン化」をさらに推進し、学校全体で共通の指導の方法等を確立する。
- ② 学力スタンダードの一環として、基礎学力の現況を的確に把握する体制を作り、さらなる定着と向上を図る。とくに自発学習へ向けた指導の充実を図る。
- ③ 学習成績の評価について共通理解を図る。

(2) 生活指導

- ① 平成 27 年度全校実施の「生活指導統一ルール」を見据えて、本校の指導体制の見直しを図る。
- ② 特別な配慮が必要な生徒への生活指導について、カウンセリング委員会と連携して実施する。

(3) 進路指導

- ① 1・2年次からのコミュニケーション能力育成などキャリア教育をさらに充実させる。
- ② 障害のある生徒に対する適切な就労支援体制を作る。
- ③ 卒業後の移行支援を見据えての指導に取り組んでいく。

(4) 特別活動・部活動

- ① 生徒会・委員会組織を活性化し、生徒が主体的に行事に関わるよう指導を改善する。
- ② 部活動の加入率を高め、全国大会出場を目指す。

(5) 健康作り

- ① 心の健康作りを充実させるため、スクールカウンセラーのコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。
- ② 相談体制の見直し、整備を図り、全教員の共通理解のもと、組織的な指導を行う。

(6) 募集活動（地域交流等）

- ① 学校広報誌「大江戸かわらばん」を年間 4 回発刊し、情報提供を充実させる。
- ② 校外掲示板を活用するとともに、ホームページの充実を図る。
- ③ 入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応する。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 校内研修を充実させ、目指す学校像に関する教職員の共通理解を一層高め、一貫した指導をする。
- ② 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。